

HOT NEWS!



コメ消費喚起用マスクを着用し業務をする職員



コメの消費を促すオリジナルマスク

コロナ予防に合わせてコメの消費拡大を JAがマスクを作製

コメの消費量は年間10万トンずつ減少しているほか、中食・外食産業等業務用米の需要は新型コロナウイルスの影響により、大きく減退しています。

J Aは、現在新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、役職員がマスクを着用していることから、消費者と組合員へのコメ消費喚起を目的に、コメ消費喚起用のマスクを作製しました。12月25日にJA役職員に配布しました。

マスクには、コメ粒と笑味ちゃんのイラストとともに、「1日3食おいしいごはん」というキヤッチフレーズが入っており、コメの消費を促すものとなっています。

マスクを作製した担当者は「コロナの影響でイベント等がない中で、どのようにコメの消費拡大をPRするか考えて、マスクを作製した。少しでも消費者・組合員へのPRになれば」と話しています。

HOT NEWS!

宮農相談員活動紹介



ハウス内で情報交換する戸崎さん(右)と諏合さん

宮農相談員は、組合員の宮農活動全般にわたり総合窓口として各種相談事の対応や地域農業の振興に寄与する取り組みをしています。JAには、9人の宮農相談員と2人のブロツクリーダーがいます。組合員の宮農活動の“水先案内人”役として、活動を続ける宮農相談員の仕事を紹介します。

東部宮農センターの戸崎徹さん（25）は、宮農相談員になつて3年目になります。「組合員のために、宮農部門に限らず経済、金融、共済を含む総合的な支援」が出来るようになるのが理想と話し、日々研さんを積んでいます。

令和2年度は、各相談員が掲げる「新規品目の導入・規模拡大」「収量向上支援」「新規就農者確保・育成」の3つの共通テーマも積極的な目標を定め、確実に成果を上げてい

ます。

戸崎さんが共通テーマとは別に策定したテーマ「新規・省力化資材（技術）の試験対応」では、6人に對し肥料農薬を含む7剤の試験を実施し、試験が終了したものから順に結果を整理しました。収集した結果を精査し、各担当者と連絡を取り、情報の共有化に取り組んでいます。

宇都宮市岩曽町で2019年10月にアスパラガス栽培を始めた諏合直樹さん（42）とは、何度も話し合いを続け、二人三脚で就農に向けて準備を進めてきました。実家の大田原市のアスパラガス農家を手伝っていた諏合さんは、自宅のある宇都宮市内で独立して農業を始めたいと思うようになりました。

先進農家の研修や実家での実践的な栽培技術や整理作業に携わっていたため、認定新規就農者の承認が得られました。その後、県と宇都宮市の担当者、専門部会担当者、融資担当者からハウス業者までを一堂に会した打ち合わせを行うなど、諏合さんの描く就農計画を進めました。

宇都宮市園芸用パイプハウス整備事業と積立金事業申請支援を行い、ハウス建設に着工しました。業者ではなく個人での施工のため、工期が遅

れないように注意しながら進めてきました。23アールの圃場に11棟のハウスが完成しました。

諏合さんは「病害虫の対策など細かく具体的な相談から経営的な指導まで何でも相談に乗ってくれるのでとても助かっている」と感謝の言葉を述べます。

戸崎さんは「新規就農者や新規品目作付を考えている組合員には、當農支援だけではなく、経営面でも最大限のサポートをしていきたい」と多角的支援を心掛けています。



圃場の状態を確認する諏合さん

「宮農振興・担い手育成積立金」支援事業の活用による生産者支援

◇「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」の実現に向け、意欲ある農業者や新規・親元就農者等への直接支援を積極的に進めました。

【支援金額（R2実績）】

総額 約3,100万円

支援対象者 70人

【支援効果試算】下記③⑤合計（38先）

作付面積 11.6ha拡大

農家所得 約9千万円増加（1人当たり 平均230万円）

《令和3年度 支援事業》

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①親元独立経営支援事業 | ⑤露地野菜生産振興支援事業 |
| ②簡易パイプハウス支援事業 | ⑥共同乾燥調製施設導入支援事業 |
| ③園芸施設導入支援事業 | ⑦水稻高密度播種栽培支援事業 |
| ④梨生産力向上支援事業 | ⑧畜産導入支援事業 |

受粉の重要性を再確認 梨専門部が販売実績報告

宇都宮南部農業経済センターで行われた
梨販売実績報告会



梨

専門部は12月8日、梨販売実績報告会を宇都宮市砂田町の宇都宮南部農業経済センターで開催しました。

県の担当者が「本年は開花・受粉時期である4月中旬から下旬に低温が続き、ほぼ全ての品種で結実不良を招いた」と生育経過を報告。黒星病については「感染している落ち葉や枝が越冬し、来年に持ち越すことから今秋・今冬の管理が非常に重要で、各自薬剤散布のほか、圃場内に残さないような耕種的防除を実

施してほしい」と説明しました。

出荷数量は約1883㌧で、前年比56%、販売金額は約8億5千万円で前年比81%。平均単価は1kg当たり、450円で前年比144%になり、単価の面では過去最高を記録しました。

最後に、JAの担当者が「今冬、受粉の重要性を生産者・JA双方が再確認し、来年以降、確実に梨を結実させることができる方法を確立させることができることが急務となる」と総括しました。

全国トップクラスの品質 きのこ専門部が現地検討会

き のこ専門部は12月1日、菌床現地検討会を下野市と上三川町の菌床シイタケの圃場4カ所で開催しました。部員、県、JAの担当者ら約30人が参加しました。

圃場を提供した下野市の伊澤義憲さんは、「4月15日に夏期カットを行い、10月10日から発生が始まった」と説明。部員は、ビニールハウス内の栽培管理状況などを確認しました。検討会後、JAの担当者は「今年度については、ここまで非常に品質が高く、東京都中央卸売市場内で流通するシイタケの中でもトップクラス。近日は気温も下がり、年末に向けて需要も一層高まることから品質面だけでなく数量面での安定出荷も望んでいる」と説明しました。

菌種メーカーの担当者は、乾燥が続くと菌床の過乾燥を招いてしまいシイタケが発生しにくい菌床になると「適度な給水を続けながらハウス内の湿度は適正に保ってほしい。温度管理も暖房機等を有効に活用し、年が明けてからも良質なシイタケが発生する菌床の管理を実施してほしい」と総括しました。

11月に行われた県きのこ・わさび展示品評会の結果を報告。入賞者は次の通りです。

▽林野庁長官賞 阿久津由美子(菌床生シイタケ、宇都宮市)、和田部一美(原木生シイタケ、宇都宮市)、▽県知事賞 加藤真人(菌床生シイタケ、宇都宮市)、今泉弘(原木乾燥シイタケ、宇都宮市) 環境森林部長賞 松島清(菌床生シイタケ、宇都宮市)▽団体長賞 神山智(菌床生シイタケ、宇都宮市) ▽実行委員長賞 金田裕重(菌床生シイタケ、宇都宮市)、黒須藤雄(菌床生シイタケ、宇都宮市)、ふるさとファーム(菌床生シイタケ、宇都宮市)



伊澤さんの圃場を視察する部員ら

販売数・販売金額ともに昨年上回る 玉葱専門部が出荷反省会

玉葱専門部は令和2年産出荷反省会が東部選果場で行われた



玉 葱専門部は12月1日、令和2年産の出荷反省会を宇都宮市上籠谷町の東部選果場で開催。部員、出荷市場関係者ら25人が参加しました。

小口義徳専門部長は「令和2年産は出荷数量、販売金額ともに前年を上回ることができたが、これに安心することなく、持続可能な栃木の農業を確立するために、JAうつのみや産のタマネギがけん引するようにしていきたい」とあいさつしました。

令和2年産の販売経過と販売実績を報告。出荷数量は2975㌧、販売金額は2億5317万円で、いずれも昨年を上回りました。JAの平均単価は昨年を大きく上回り、昨年対比で128%になりました。

市場担当者は「10%の段ボール箱の出荷要望が強まっている。JAうつのみや産は品質が良く取り扱いを希望する量販店が多いため、次年度は今年以上の出荷をお願いしたい」との要望がありました。

高品質でブランド確立を スカイベリー研究会が目ぞろえ会

苺 専門部は12月7日、令和3年産スカイベリー研究会出荷目ぞろえ会を宇都宮市下小倉町の上河内野菜集荷所で開催しました。会員やJAの担当者ら20人が参加しました。

J Aの担当者が令和3年産スカイベリーの出荷指導規格を説明。「的確な品質管理による安全・安心、高品質のスカイベリーを出荷し、ブランドを確立すること」を求めました。連日収穫・早朝収穫を実践し、「熟度統一」を徹底することを呼び掛けました。

カラー チャートを使った現物確認では、市場の担当者が「出荷は全国的に遅れ気味なので、クリスマスから年末にかけて高値で推移すると思われる。マダラ果や着色不良果などに注意し、しっかりと選果・選別してほしい」と説明しました。

J Aうつのみやは令和2年産スカイベリーの栽培生産者、栽培面積、出荷量が県内1位の産地になっています。



スカイベリー研究会が令和3年産出荷目ぞろえ会を行った



本所で行われたSDGs役職員講座

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs役職員講座(12月21日、本所)



宇都宮市環境政策課「宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム運営本部」の職員3人が講師を務め、基本理念や取り組むべき目標、宇都宮市内の企業などの具体的な取り組みを学びました。横松久夫組合長は「SDGsとは何かを学び、私たちがどのような行動をとればよいかの指針にしてほしい」とあいさつしました。



JAPACKAGEセンター稼働(12月4日)

とちおとめのパッケージ作業が東部選果場で始まりました。厳しい品質チェックが行われているため、出荷先でも上々の評価を得ています。



稼働したパッケージセンター



業務用のとちおとめ



出荷されたとちおとめ

組合員の皆さんからの地域の話題や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。

管内インフォメーション

組合員から信頼される職員に 令和2年度信頼度アップ・対話力アップ研修会

JAは12月22日、「令和2年度信頼度アップ・対話力アップ研修会」を開催。組合員のアクティブ・メンバーシップの確立に向けて、組合理念およびJAの果たす役割について理解を深めるとともに、組合員との信頼関係や対話力アップに向けたコミュニケーションスキル等の習得を目的に入組3~5年目の職員29人が受講しました。

研修会では、「アクティブ・メンバーシップ」について、JAの取り組みや、アクティブ・メンバーシップ確立に向け、どのような課題があるのかを学びました。また、課題解決に向けて、組合員との信頼関係を深め、事業利用や活動への参加を高める方法について、グループに分かれて討論。職員自身のスキルアップや組合員の意見を取り入れやすくする意見箱の設置など様々な具体案が出されました。

今回の研修について、人事課の上野裕教育係長は「JAうつのみやは今後も育っていく組織。皆さんの新しい意見で組織も個人も成長していく。これからも自信をもって業務にあたってほしい」と期待しています。

JAうつのみやは今後も研修会を継続的に行い、人材育成に一層力を入れていく考えです。



課題と解決策を話し合う受講者

ハウス内のデータを「見える化」 Gアスパラガス専門部が実演会

グリーンアスパラガス専門部研究グループは12月2日、ハウス環境モニタリングシステムfarmo（ファー毛）実演会を上三川町の圃場で実施。部員やJAの担当者ら20人が参加し、ハウス内の温度や湿度など8つの要素を「データ化」するシステムを学びました。

坂入良輔グループリーダーは「栃木県もスマート農業を推進しているが、グリーンアスパラガス生産は、これまで経験値に頼ってきた。ハウス内のデータを蓄積していくば、よりよい栽培ができると思う」とあいさつしました。

メーカーの担当者が、機器の内容や設置方法などを説明。ハウス内の環境を、データで見える化することで、大切な作物が現在、どのような環境に置かれているかを正確に知ることができるとし、「収量アップや品質向上、病虫害対策など、これまでの栽培技術をよりよく効果的に高めることができる」と説明しました。

参加者からは「ハウス内に電源がなくても利用できるのか」「利用料金は」「バッテリーはどのくらい持つのか」などといった多くの質問が出され、関心の高さをうかがわせました。



上三川町の圃場で行われたハウス環境モニタリングシステム
f a r m o ファー毛 実演会

水稻



育苗の準備をする季節になりました。保有米を含め、100%種子更新をして美味しいお米の安定生産に取り組みましょう。

種子の準備

種子粉は10g当たり乾燥粉で3~5kgを目安に準備します。

種子の消毒
種子消毒は必ず行いましょう。消毒済の種子は殺菌剤の処理のみであるため、スミチオン乳剤を加え、殺虫処理を行いましょう。この際の浸種は10°C以上の停滞水で3日間浸種し、この間は水を替えないようにします。

また、温湯消毒をする場合は、①種子粉を網袋に詰め、②温湯消毒器の湯温を60°Cにし、10分間浸漬します。③浸漬後は直ちに冷水で冷却します。温湯消毒後直ぐに浸種する場合は、乾燥させずに浸種します。播種まで期間がある場合は、ムしないように乾燥させ、清潔な冷暗所に保管します。

【表1】

床土の施肥 (g/箱)

肥料名	施肥量
稚苗用細粒555	30
又は	
単肥	
硫安(N)	8
過石(P ₂ O ₅)	10
塩加(K ₂ O)	4

【表2】

床土消毒

薬剤名	1箱当たりの使用量
タチガレースM粉剤	6~8g
タチガレースM液剤	500~1,000倍液を0.5l
ダコニール粉剤	15~20g
ダコニール1000	500~1,000倍液を0.5l

*覆土も必ず消毒する

床土の施肥は表1の通りです。播種10日前に混和します。床土の施肥は表1の通りです。播種10日前に混和します。播種10日前に混和します。

催芽
催芽温度は28~30°Cに設定し18~20時間で均一に催芽させ、大部分の粉が芽長1mm程度になっているのを確認してから播種します。

浸種
水温を13°C前後に保ち、2~3日ごとに水を替えるながら、消毒種子は積算温度120~130°C、未消毒種子は100~120°Cを目指に行いましょう。
3月中旬~4月上旬は最低気温が氷点下近くなる日もあることから油断せずに保温措置をとりましょう。

未消毒種子を使用する場合は、必ず殺菌・殺虫処理を行い、発芽の揃いをよくするため、浸種期間を充分に確保しましょう。

床土の準備

床土は保水力が高く通気性が良いものでpHが5.0~5.5の赤土か山土を使用します。pHの高い土は、苗立枯病、ムレ苗が発生しやすくなります。pHの高い水田や畑の土の使用は控えましょう。

床土の施肥は表1の通りです。播種10日前に混和します。

床土の施肥は表1の通りです。播種10日前に混和します。

床土消毒は、苗立枯病、ムレ苗の発生を防ぐため必ず行いましょう。粒状培土でも消毒は必ず実施して下さい。(表2)

播種

一箱当たりの播種量は、乾燥粉で150g以下とし、均一に播種します。覆土は、施肥・消毒した床土と同じものを使用します。

出芽

平置き出芽法の場合は、ハウ

スに展開後、シリバーラブ等の専用資材で被覆します。ハウス内が35°C以上になると、十分な散布水量で雑草の葉がよく濡れるようになります。

雑草防除

雑草は刈り取り作業の支障になるだけでなく品質低下を招きます。雑草が発生している場合は、茎立ち期までに、防除しましょう。その際は、十分な散布水量で雑草の葉がよく濡れるようになります。

麦



今年産の麦は、少雨等の影響により生育量が少なくなっています。今後の降雨等に備えて、速やかに明きよの整備を行いましょう。

麦踏み

3月上旬の茎立ち期直前の(幼穂長2cm)の麦踏みは、分けつを良くし、成熟ムラのない倒伏しにくい麦にする効果があります。圃場の土が靴に付かない程度に乾いていることを確認してから実施しましょう。

行い、再び被覆して1~2日すると出芽します。

電熱育苗器を利用するときは、育苗器内を30°Cに設定し芽が1cmになつたらハウスに展開します。

南部支所

だより

各支所の活動や地域の情報を届けします！



コロナウイルス感染防止に努め、グラウンド・ゴルフ大会開催

年金受給者友の会横川支部（大野純一支部長）は、コロナウイルス感染防止のため、計画していた活動がほぼ中止となる中、手指消毒やマスク着用等をし、競技者同士が密にならないように間隔を保ちながら、11月19日に18人が参加し、元気に楽しく、今年度初めての大会を実施しました。「コロナ禍の中、いつもよりも少ない参加人数であったが、感染防止策を講じ、無事、大会を開催できて良かった。コロナが早く終息し、次回は、多くの会員が参加し、大会を開催したい」（支部長談話）

支部では、新たな会員の募集をしております。この機会に、是非、JAに年金振込をし、会員になり、一緒に楽しい活動をしましょう。興味のある方は、南部支所まで、お申し出下さい。



天気にも恵まれ、目指せホールインワン！

安心・安全な地元産農産物直売所 インターパーク店

トマトをはじめ
新鮮野菜・果物が人気！



ご来店お待ちして
おります



JAうつのみや管内の生産者が丹精込めた農産物が毎朝出荷され、店内の陳列棚に新鮮な野菜が並んでおります。コロナ禍の状況ではありますが、管内はもとより、地区外からの来店者も多く訪れています。店内は、感染防止対策を徹底し、来店者に安心して利用していただけるように対策を講じております。1人でも多くの方に安心・安全な地元産農産物を購入いただけるように、今後も努めています。

みどり会横川支部寄せ植え教室

女性組織みどり会横川支部（中谷友子支部長）は、コロナウイルス感染防止のため、今年度、計画していた活動がほぼ中止となる中、新年を迎えるにあたり、コロナの早い終息を祈念し、講師に菊池孝治氏を迎え、16人の会員が参加し、寄せ植え教室を開催しました。「新しい年が良き1年になるように気持ちを込めて作りました。作品を家に飾り、新年を迎えると思います」。（支部長談話）今年度、初めての活動であり、楽しい時間を過ごしました。



久しぶりに会えた
メンバーと
和気あいあい



彩り豊かな
寄せ植えと
一緒にパチリ



各種お問い合わせはこちらへ

支所・センター電話番号

中央支所 028-633-3467

宝木出張所 028-622-6111

平石支所 028-661-4311

南部支所 028-656-1020

城山支所 028-652-0711

北部支所 028-665-0003

豊郷支所 028-624-8011

清原支所 028-667-0151

姿川支所 028-658-6881

上河内支所 028-674-3333

河内支所 028-673-3155

南河内支所

0285-48-2211

上三川支所

0285-55-1510

宇都宮北部営農経済センター

028-665-0550

宇都宮西部営農経済センター

028-658-6565

宇都宮南部営農経済センター

028-656-8484

宇都宮東部営農経済センター

028-660-3535

上河内営農経済センター

028-674-2164

河内営農経済センター

028-673-6911

南河内営農経済センター

0285-48-2215

上三川営農経済センター

0285-55-1511

キャッシュカードの紛失・盗難
フリーダイヤル0120-082065

夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931

J.A.葬祭(24時間受付)

アトラス宇都宮ホール 028-660-5555
アトラスアミリーホール鶴田 028-633-9200
アトラス上三川ホール 0285-55-1555

LPGガス関係 灯油・軽油・A重油の配達
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)
※緊急連絡先028-633-0085